



発行所/青山同窓会
〒951 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL025-266-2131

編集、発行人/上村光司

印刷所/オリオン印刷機
〒950 新潟市南出来島1-19-1
TEL025-283-2151
FAX025-283-3804

新年と新任のごあいさつ



青山同窓会会長 37回 鈴木正二

皆さん、あけましておめでとうございませう。相変らずお元気で新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年(昭和62年)は、国内的にもいろいろな出来事が次々と起り、不安の一年でしたが、今年に入ってからなんとなく落ち着きを取り戻し、明るさが見えて来たようです。

皆さんにお願いいたします。昨年4月、95才の天寿を全うされてお亡くなりになりました。昨年7月16日の総会で、会長に選任されましたが、私が鍵富前会長のご推薦で副会長に就任したのは丁度10年前、その間何等することもなく、会長などの器でないことは百

も承知ではありますが、総会で皆さんのご指名がありましたからには、会員皆様方の格別のご理解とご協力により、その任を全ういたす所存でありますので、何卒よろしく御願ひ申上げます。

同窓会の会則により、この会の目的は「会員相互の親睦を増し、母校の発展を図る」ということであります。

鍵富前会長の意志を継ぎ、創立百周年を迎えるの母校の益々の発展へのお手伝いをさせて頂きたいと念願しておる次第であります。どうか変わらぬご支援をお願い申しあげ、ご挨拶いたします。

昭和62年度 青山同窓会総会



七月十六日(木)、オークラホテル新潟で昭和六十二年度総会が開かれた。冒頭、同窓会会長として長い間御尽力いただいた故鍵富清一郎さんを偲んで黙祷が捧げられた。

議事に入り、決算、予算、新役員人事(下記)も承認され、引続き懇親会に移る。小田嶋実行委員長の司会で賑やかに進み、出席多数期の表彰をし、又新機軸として女子会員の出席を促す為、女子多数出席期を表彰し、景品をお渡しした。恒例の如く応援歌、万歳でしめくり、三々五々と各期毎の二次会へと散会した。

青山同窓会総会

会 長	37	鈴木正二
副会長	38	鈴木英男
幹事長	55	和田迪雄
副幹事長	50	上村光司
幹事	63	赤羽良樹
副幹事	52	筑波竜二
幹事	60	小林 享
幹事	60	上杉雅之
幹事	61	江口良助
幹事	64	小田嶋 寿一
幹事	67	石田瑞穂
幹事	78	小林敬直

青山同窓会 役員

監 事	55	早福 卓
幹事	39	福山 健
幹事	43	田中 一郎
幹事	48	小池 清泰
幹事	52	豊岡 富栄
幹事	52	栗原 一也
幹事	55	阿尻 威吾
幹事	60	金山 常吉
幹事	50	瀬谷 誠
幹事	33	佐藤 岩男
幹事	43	梅田 悌次
幹事	53	佐藤 良策
幹事	36	斉藤 英四郎
幹事	40	南学 正時
幹事	44	斉藤 伸雄
幹事	51	浅見 信夫

東京青山同窓会役員



名譽会長	36	斉藤 英四郎
副名譽会長	40	南学 正時
会 長	44	斉藤 伸雄
副会長	51	浅見 信夫
幹事	50	瀬谷 誠
幹事	33	佐藤 岩男
幹事	43	梅田 悌次
幹事	53	佐藤 良策
幹事	36	斉藤 英四郎
幹事	40	南学 正時
幹事	44	斉藤 伸雄
幹事	51	浅見 信夫

東京青山同窓会総会

東京青山同窓会 幹事長 52回 豊岡富栄

新潟の本部から鈴木会長、宮地校長のご来席をいただき、11月13日に大手町サンケイホールにて、盛大に総会を開くことができました。

5月の新人歓迎会や、名簿の発行により、東京青山同窓会も一層充実し、活気が出て来ました。事務局も整い、これからは上京学生の相談事も就職問題も全面的にバックアップします。

東京新会長44回 齊藤伸雄氏



62年度 東京青山同窓会総会



同窓芸術家による展覧会も有意義なことと考えています。地元と東京との連絡を密にし、同窓会員としての一体感を強める各種の行事をおし進めてゆこうと思っております。

大臣就任 おめでとうございます

昨秋、竹下新内閣の発足にあたり、先輩佐藤隆氏(52回)は農林水産大臣に就任されました。同窓として、心からの喜びを申し上げ、今後の活躍をお祈りしたいと思います。ご多忙の中を、同窓各位へのご挨拶をいただきました。

御挨拶

農林水産大臣
52回 佐藤 隆

青山同窓会の皆さん、明けましておめでとうございます。旧ろう、還暦を迎えた私が新潟中学を巣立って、はや四十二年、懐かしかったあの頃を想いつつ、いま、厳しい国際経済状況の中にあつて、四面楚歌である農林水産行政の重い仕事にとっぷりつかり連日連夜、苦闘をいたしております。

農林水産大臣は、明治十四年の初代農商務卿から数えて私で一一九代目だそうです。



波の日本海に向つて大声を張りあげた少年期から青年期への曇りなき鍛錬が、いまの政治活動に根性として、どれだけ役立っていることか。思い出はつきません。

閑屋ダンゴも忘れられませんか。あの「蘭団」の影響で今なお私はお団子、饅頭、餅に目がなく、私の食生活の大きな部分を占領しています。

とここで、さんざん回り道をしてやつと大臣というポストに就かせて頂きましたが、所詮は新潟モン。農政のエアとか、ベテランとおだてられ乍らの国会答弁では、いまだに「い」と「え」の区別がつかず、度々TVの視聴者から叱責の投書ももらい、いささか面くらつています。新中時代、国語の先生から「いとエが出てきて、分かんなくなつたら、逆に言え」といわれたことが、またまた懐かしく思い出される昨今です。

新中時代、決して優等生ではなかつた佐藤隆ですが、今日の私を作つた土台は、すべて旧制新潟中学・青山時代の体験に基づくものです。未完成ものですが、どの分野にも共通する「道無限」を腹に据え国際的な生きまもの、政治の世界でさらに精進を続けてまいります。

諸先輩はじめ、同窓各位の一層のご教導・ご鞭撻をお願いいたします。任重し期すところあり初詣 一粒

へ予告

泉庁青山会新年会
県庁内の青山出身者の組織である本会々員の一層の親睦を図るため、恒例の新年会を計画しています。ぜひご出席

☆いつになく暖かい冬が続き、最高気温が十五度近くまで昇る日々もあつたりして、サンタクロースは橇に乗れないわ、スキー場には雪がないわでその筋の人たちにとつては受難の暮れ、正月でした。でも雪のない冬は、なんと有難いことかと思う人もこれまた多いと思います。洗濯物を外で干してみたくもなる日があるこの天候に万歳を送るご年輩も多からうかと思えます。しかしやつぱり四季それぞれがそれなりに自己主張し、私達に折り折りにその風情を肌と感じさせてくれます。かとも思います。

☆昨年内外ともにいろいろありました。ゴールのないマランのような円高・ドル安

下さい。

日時 63年1月26日(後)6時
会場 新潟郵便貯金会館 川岸町2 電話 23210101
会費 部長級・G B七千円、課長補佐級六千円、係長級五千円、主事・技師四千円

幹事人 (59回卒)五十嵐哲夫、鈴木誠一、田中浩雄、諸橋丈夫、(60回卒)市川豊、大橋威田中浩一
実行幹事(74回S41年卒一同)

『青山同窓会 職業別名簿No.1』

職業別名簿No.1
—— 松達の情報基盤 ——
地元と東京の有志会員による資料の提供をいただき、十九の職業に分類した約一万名を載せてあります。発行は東京青山同窓会、B5判四七八頁、学年別総索引付、領価四千円、学割三千円。お求めは事務局まで。

追加工簿資料をお送り下さ

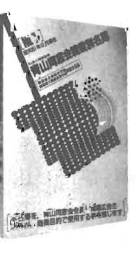
の二重奏、改造されたッふるさどをどう改造する竹下新内閣、手探りの対策で大学・受験生を悩ます共通一次等々、難問山積。現場が余り困らないうき解決を望みたいと思えます。

に大きな輪の仲間づくりの船の出の途についています。☆また母校でも学級増の波が押し寄せ、一年生は十一組に十二組になることが決定されています。学級増で高校

去年 今年
校内編集部
69回 枥倉 浩

☆皆さん、仲良く「」を毛ツトに長い間青山同窓会にご尽力頂いた鍵富前会長が昨春他界されたことは、大きな柱を失い残念の極みでした。それにもめげず、同窓会では鈴木新会長の下、今年もさら

い。大日本印刷のコンピューターに入れて整理しておきます。同窓会名簿作成以外の使用方はいたしません。
青山同窓会職業別名簿編成局
160新宿区中町15 神楽坂マンション
電話 03-3269170-14
電話 03-3269170-14



に接することができるようになっています。☆大晦日に家族と二年参りに行つて来ました。行く年に敬意を払い(私の場合懺悔というべきでしょうか)、来年にささやかな期待を寄せるこの二年参りを十数年続けています。雑踏が普段余り好きではないのですが、この参拜の時だけはこの群衆が似つかわしく、人混みに押されながらの自分勝手な神頼みになぜか心の安らぎを覚えます。漫然と時を過ごした昨年の二の舞は踏まないでやつて行けたらなと思つています。

去年今年貫く棒の如きもの 高浜虚子
諸兄におかれまして「春來福來」であることをお祈りいたします。

が対応に追われている昨今、保育園、幼稚園では逆に「園児不足が最大の悩み」とある教える子の年賀状に書いてあります。生徒の数が減つても止まることのない生徒の流れの中に立ち若い息吹

いあいさつ

青山同窓会幹事長

63回 赤羽 良樹

幹事長の抱負といわれても大それたものは何もない。鈴木新会長さんの意向をくんで幾分かでもその御負担を軽くする事に務めるのみです。それにしても「私が?」というのが今でも実感です。日報の上村さん、青山堂の

斎藤さん、お茶の小島先生と歴代の幹事長を考えてみるといかにもそれらしく、貫禄と重厚さが感じられたのに、私は年令だけではなく、いかにも軽量、まだまだ若輩で、当然ともいえるが、これは又性来のものもあって今更

どうしようもない。せめてその「軽さ」を長所として生かして、せいぜい軽快に動くようにいたしたく思います。次に「ウシ」は重みがついて、らしくなります様、宜しく御指導、御鞭撻をお願いいたします。



青山渋柿会例会

38回 近藤 圓



青山渋柿会も回を重ねて第十一回となり、恒例により十月の第一日曜日の正午から信濃川端の生粋はなれで開催した。大正八、九年頃から昭和五、六年頃まで寄宿舎で生活した仲間の集まりで、年齢層も八十前後から七十四、五

興味は尽きないから妙である。しかし年は争えず、今回は与板の(35)丸山英二君の逝去で一人減ったことは残念、冥福を祈った。面白いのは皆川良二君が加茂市長をやめたこと、今度富所太三郎君が吉田町長になり、お酌の女子衆も「偉い人の集まりなんですね」と感心していた。

和五、六年頃まで寄宿舎で生活した仲間の集まりで、年齢層も八十前後から七十四、五歳と、老人クラブ風の集まりになった。会の成り立ちが少年時代、文字通り同じ釜の飯を食い、枕を並べて遊学した間柄だけに、話は毎度の事ながら舎監長渋谷河馬をいじめた話、炊事人笹川桃太郎を相手の賄退治、試胆会、舎監の思い出等、何度語り合っても

話は尽きないが老体に無理は禁物と、名苑で記念撮影をし、また来年のこの日を約して三時すぎ散会した。出席の面々は前列右から(33)佐野賢一郎、(33)永井行蔵、(35)武田慎三郎、(37)河内正彦、(後列)丸岡寛、(38)細野哲雄、(38)皆川良二、(35)内田善衛、(36)富所太三郎、(38)近藤圓、(35)近藤百之、(38)橋本太助。

わが学年の才媛 田中典子君が昭和62年度司法試験にみごと合格した。本校OGとして初快挙ではないかと思われるので、合格に向けての苦労や現在の心境などを寄せていただいた。

(校内幹事 上杉雅之)

十月三十日の最終合格からはや二ヶ月経ちました。司法試験というのは第一次試験と第二次試験とに分かれており、第一次試験は全くの教養試験で大学の教養過程を修了した者は免除されます。これに対して第二次試験の方は、かなりの難関と世に評される倍率五十倍の試験であり、これがさらに五月の振一式試験、七月の論文式試験、十月の口述試験の三つに分かれます。

幸運にも自分が合格してみると、司法試験など、法学としてのレベルが特に高い訳ではないし、俗に言う様な「日本一難しい試験」には値しないと思います。只「現代の科挙」という面は確かにあり、実力ある有望な若い人達が受験勉強で青春期の大半を費してしまいかねない恐い試験です。

私も(およそ有望とは形容し難い人間ではありますが)この夏、論文式試験で失敗し

愛する権利

90回 田中典子

たものと思い込んでいましたので、また来年も、再来年も失敗するんじゃないか、一生受からないで終わるのではなからうかと心底怯えたものでした。合格して何より嬉しかったのは、両親その他周囲の人の安堵の顔を見ることができた事と、ずっと落ち続ける事への恐怖から解放された事の二つです。大学在学中の所

ゼミ等で御世話になった先輩達への感謝の気持ちで一杯です。

ところで、私が大学進学時に法学部を選んだのは、弁護士にでもなれたら、という淡い希望と、他に何の才能もないというある意味の諦観からでした。小さい頃はかなりの本好きであり、才能があったら文学関係の仕事につきたい

謂現役時ならば、まるで怖さのかけらもなく気楽に受けられますが、受験生活が長くなればなる程、プレッシャーは高まるばかりです。その点私は、大学を一年留年し、三月に卒業したての浪人一年目、二十三歳という比較的若年です。合格できたのですから(因みに合格者の平均年齢は二十八歳です)、極めて強運な部類と言わざるを得ません。

プロファイル
昭和39年1月28日生
内野中学校卒・新潟高校57年卒
東京大学文工入学57年
同大学法学部進学59年・卒業62年

人に死なれ、麻薬とアルコール中毒で身も心もボロボロになっていた時期に二十一歳年下のギリシヤ人の青年と知り合い、彼の愛によって立ち直りました。世間はピアフに対し、若者をたぶらかして、と冷たい非難を浴びせましたが、彼女は復帰したオランピア劇場で、この歌をもって非難に応えました。「愛する権利」

その歌は、人間同士が愛し合う事は罪ではない、人は誰も幸福になる権利がある、私も孤独と闘い血を流し、代償を払ってやっと権利をつかんだ、この、貴方を愛する権利を守り抜くのだ、と唱っています。

確かに法律は人を拘束し裁くという冷酷な面を持っています。しかし反面、力弱者を守り、また力弱者が強く生きていくための武器ともなり得ます。ピアフの歌は、彼女が誇り高く果敢に生きようとする姿勢をまざまざと示すものであり、美輪氏の熱唱と共に私に深い感銘を与えました。

愛する権利を守り抜く。そんな言葉に感動しながら、希望を持ってこれからの二年間、司法修習生として過ごしていきたいと考えています。

慚愧・惨敗を回顧して

23回 清水浩 一

◇琵琶湖遠征の惨状を想起する
 (私の若き日、70年前の古い思い出)。大正の始め、新潟中学ポルト部仲間から、一生の思い出に琵琶湖の全国大会へ遠征しようと話が出た。五年の宇野先太郎君が大津市生れで、色々大会の様様を説いたのが有志の決意となり、四年頃から着々手を打って、いよいよ左のメンバーが揃った。整調川又、五番宇野、四番安宅、三番齊藤、二番中野、一番清水、コックス稲垣、引卒総指揮は大先輩出塚氏と決定した。大会は八月、夏休みなので学習には無関係とあって割合都合であった。さて連日の猛練習で自信の持てるまでになったのは在京中の大先輩各位の熱心な指導で只々感謝感激する次第。

◇さて、全国の精鋭が出揃って、いよいよ大会が明朝待つばかり……。ところが前夜来の台風がしきりに報道され出したが、日程によって定刻大会が開始された。しかし天気がいよいよ荒化してくる。波は高く、横なぐりに吹き

つける風で艇は木の葉の浮き沈みである。数回の子選が終つて昼過ぎ、いよいよ私達のレースだ。
 三コース新潟、二コース丸亀、一コース京都二中、風は右から横なぐりなのでわが艇

の動揺はもつとも厳しくなる有様。しかし、スタートは幸に吾が艇は約半艇身先んじた。これなら……と喜んだのも束の間……、ああ高波で木の葉の動揺……。ついに三番齊藤君のオールが抜ける……。水は滝の如くドンドン入って来る。艇は傾く惨状……。沈没寸前……。ついに漂流の姿でゴールにたどりついたのでした。そして緊急役員会、会

おいたのだが、好季節の為、他の会合と重なり、常連の欠席が多いのは残念。然し東京在任の中村、鈴木両君(いずれも附属小は小生と同期)の参加あり計13名。
 新装成った5階の大浴場からはるかに阿賀の上流を眺めて一浴、開宴す。
 なお、昭和67年は昭和7年卒の我々には卒業後六十周年に当るので、中締め節目として盛大に開会し度く各自五万円積金の原案をその席で福山より配り、一同の賛成を得会の隆盛を期して万才三唱して閉会す。

長殿下の命令で停止、後はすべて翌日に延期されてしまつたのであった。
 翌日は前日の荒天が夢か嘘のよう。波はなく全く平静な上天気であった。残念無念の世……。運命の大会、悔のみが深く印象に残っているのである。人生とは、浮世とは、勝負の世界に運、不運はつきものとは、よく言つたものである。

◇大会は参加することに意義があるのだ、勝敗は問題にするなど識者は申されるが、勝利の栄冠を頭に誇るのは誰れしも望むところだ。しかし競技大会に参加する……。その途上の長い長い努力、精進によつて鍛えあげられる身心こそ最大な成果であり、最大の成長である。これが人間形成への道と考えるたい。

気て活躍している。
 エピソードを交えてのユニークな話しに、そこそこから笑い声がおこり、和やかに会は進行した。
 今年の物故者は、町田市で内科医開業の富田秀雄(旧姓高橋)、和光プラスチック製作所の取締役だった井上常吉時々物議をかもし幹事を困らせた戸田鼎(旧姓西垣)の三君で幽明境を異にされた。
 高山君のハーマニカの演奏の後、有田君の発案で校歌合唱あり、再会を期して散会となった。何年経つても友情に変わりはなく、何物にも変え難き良き友の集まりである。
 出席者は上の写真の十七名であった。

青山三九会の例会

10月15日(日) 晴天朗々、正に秋晴れの東蒲は咲花温泉の常宿「佐取館」にて開会。

かねて前々から予告はして



秀夫、藤木得司、皆川登良夫、涌井十一郎、佐藤平八、山下八郎、池田藤三、川崎孝治、高橋新一、小林清市郎、藤巻行也、福山健(以上の十二名)。

42回古稀を迎えて 意気ますます軒昂

42回 菊地 勲

恒例の同期会、11月14日、篠田旅館で開催。横浜より常連の鳥羽君、東京より丸山君が遠路馳せ参じてくれた。今回は少し趣向を変えて、



各人の自己紹介と近況報告に時間をかけた。

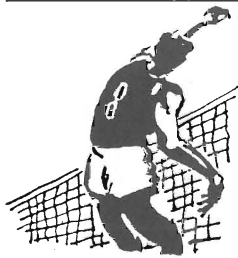
昭和十年に青山を巣立った紅顔可憐の美少年も漸く古稀を迎えたといえ、意気はますます盛んで、激動の戦前、戦中を乗り切り、公私共に元

後輩の活躍 各種大会の成績

秋季地区大会
 硬式テニス 男子単2位田中貴紀、女子単3位西脇千花、女子複3位西脇・原、新潟地区一年生大会男子単3位鶴巻浩憲、女子単1位西脇千花、女子複3位西脇・風間

卓球 男子団体3位 排球 男子1位、女子3位 羽球 男子団体2位、男子複3位本間・山本 サッカー 2位

県大会 その他
 排球 男子一、二年生大会1位 剣道 中山杯剣道大会 男子団体3位 ラグビー 3位 花園予選 柔道 BS N大会 軽重量級2位名塚フエンシング 男子団体1位、女子団体3位 陸上 県選抜陸上競技大会 個人男子百十H 3位志田 第42回国体 男子少年B走巾跳6位志田



「時空を越えて」

我等70回同期会を終えて

70回代表幹事 藤 誠

我々第70回「同期総会」は5年毎に地元幹事が設営して開催しております。今年卒業25年記念大会ということで、春先より準備に

入り、全国に散らばる皆に呼びかけたところ、8名の恩師に加わって頂き、140名の参加者を数え、10月10日に開催いたしました。

今回はタイムスリップをして、我々の青春時代に帰ろうという基本的なコンセプトで企画をスタートさせました。そこで皆で母校に集まって当時の授業を再現してみようという単純かつ大胆な発想で計画を進めてまいりました。

第一限目は国語の、岩野トングリ先生から「会津八一について」、また第二限目は数学の、沢山ダンゴ先生の「因数分解」を各々四十分ずつ懐かしい教室で実現してみました。

両恩師は揃って喜寿を迎えられるというのに、ご自分でテキストを作成されての張り切りようで格調高く、内容の濃い、又、昔とちつとも変わらないウィットに富んだ授業でした。

又、聴講生もはや四十半ばにならんとしているのに、在



岩野先生

熱心に授業をうける

沢山先生



関根先生の講義(あいさつ)

今は母校校長の宮地主任と生徒たち

校歌斉唱(幹事ごころうさん)

まれて談談も進み、うすくなりかけて来たオツムの為に名前と顔が一致しなかった者も時間と空間を越えて青春の姿に返っての二時間は盛り上がりの中でアツという間に過ぎてしまいました。

又、この会場には元写真部の担当幹事の貴重な写真集が「青陵祭」「駅伝マラソン」「修学旅行」「学園でのスナップ」等々若かりし頃の思い出を会場一杯に掲示したのも盛会の大きな要因となりました。翌日も休みでしたので二次会も全員参加で設営してありました。次の会場のガルベ

ストンクラブは貸切にしてもらい、ガラリとムードを変えて二次会が始まりました。パネルにした想い出の写真のオークションや、元応援団諸君のリードで「青山」を始めとする青春歌の数々の大合唱や、恩師の活躍と健勝の

エール等、本格的な酒会の中で交流の渦の中に全員浸り切ったものでした。

午後四時に学校会場をスタートした会は、ようやく十二時に一応散会となりましたが興奮さめやらぬ参加者は、帰宅する者もほとんどない仮に午前二時頃我々の二十五年振り

の「青陵祭」は幕を閉じました。

現校長の宮地先生始め、諸先生方の絶妙なお話に引き込

県外からの参加者は約六十名を超え、幹事として深く感謝すると同時に五年後は我等「青山」の創立百周年とあわせて、七十回卒業同期会も二十年目を数えますので、又、元気で再会できることを祈っております。

(追伸) 宮地先生作成の記録ビデオを近々編集致しますので希望者は事務局へご連絡ください。

児玉賢司63回「年輩の歴々たる方が多い事は想像していたが意外に若い人も多いのでおどろいた。我々中堅どころがむしろ少い。皆をさそってみよう」

安原桂子65回「いかにも新潟県人の集まりらしい。もう少し交流が開けてきたらよいと思う」

相沢秀彦95回(中大法1年)「若い人、女性が少ない。受付の仕事は仲々忙しかった」

大沢利郎95回(早大人間科学部スポーツ科学科1年)「もう少しキレイどころを」

南学佐智子(南学前会長のお嬢さん、東京の総会は家族も参加出来る。老夫婦お揃いのほほえましいカップルも二、三見えた)「家族的で和やかな雰囲気がい」

佐藤岩男33回(出席者中の最長老)「毎年出席している。今日はウルトラジャンケンのかげ声をかけて楽しかった」

編集後記

☆ 新役員も決まり、新会長、幹事長のごあいさつをいただきました。東京も新役員となりました。それぞれ、新しく歩み始めました。各各位のご参加とご協力を願う次第です。

☆ 今号には市川氏の中国紀行、田中さんの司法試験体験等長文の原稿が集まりました。

☆ クラス会便りでは、30周年の65期、25周年の70期と、それぞれ大集合のもと、楽しかった様です。その他のクラス会、紙面の都合で参加者名等カットさせていただきました。お許し下さい。

☆ 会員の皆様の今年一年のご活躍を祈念いたします。

青山同窓会収支決算書・収支予算書

(自 昭和61年 4月1日 / 自 昭和62年 4月1日 / 自 昭和63年 4月1日 / 至 昭和62年 3月31日 / 至 昭和63年 3月31日)

収入の部			
科 目	61年度決算額(円)	62年度予算額(円)	
繰 越 金	399,496	402,000	
入 会 金	1,129,400	1,116,000	
会 費	3,623,000	3,300,000	
雑 収 入	11,746	10,000	
合 計	5,163,642	4,828,000	

支出の部			
科 目	61年度決算額(円)	62年度予算額(円)	
人 件 費	2,609,870	2,600,000	
通 信 費	614,400	600,000	
刷 刷 費	90,500	100,000	
慶 弔 費	111,460	70,000	
退職積立金	50,000	50,000	
諸 費	2,060	18,000	
会報印刷費	356,000	370,000	
会 議 費	345,814	300,000	
卒業生記念品代	158,200	160,000	
青陵祭補助	80,000	80,000	
通信制補助	239,000	230,000	
子 備 費	104,000	250,000	
合 計	4,761,304	4,828,000	

収支差引残高 402,338円(次年度繰越)

昭和62年 5月 8日

上記の通り相違ないことを確認致します。

監事 福山 健 ◎
監事 沢山 巖 ◎

第65期卒業30周年大会報告

65回 佐藤 勝 弘

我々、青山65期・新潟高校9回生は入学直前に校舎を消し、焼け残りのバラック校舎での二部授業で昭和32年3月卒業させて頂き、その30周年記念大会を、新潟祭りの樽砦が聞こえる西堀イタリヤ軒で現校長の宮地正樹先生をはじめ当時の小野塚教頭先生、クラス担任、専科の先生方恩師11名の御出席を得、そして北海道・東北・関東・東海阪神・中国地方の全国から馳せ参じてくれた同期生一〇四名の総勢一五名で開催した。卒業後クラス別とか地区別には同期会は開かれていたよ



益々御元気な小野塚先生のごあいさつ



久々の再会のテーブル

うだが同期生一同が会して集うのはこの度が初めてであり受付や控えのロビーでは一目見るなり「ヤー、元氣らったか!」と肩を抱き合い、また相手の胸プレート名を讀んで、初めて「えー?オモらったんか、先生かと思つた!」と互いの風貌の変わり様に戸惑いながらも固い握手を交わし、30年の月日が語る風景がそこかしこに見受けられた。午後六時より、宮尾氏(B組)の名司会で記念式典が始まり、小川・三林(小川)両氏の指揮と伴奏で久しぶりの校歌斉唱、次いで幹事挨拶、そして、小野塚教頭先生から「卒業30周年ということは人生の仕上げの年代であり、これまで以上に努力、精進して欲しい」と叱咤激励を頂いた。そして現校長の宮地先生から後輩達の勉学・スポーツ・芸術での活躍状況をお聴きし、参加者全員で記念写真を撮り式典を終えた。



久しぶりの校歌斉唱

午後七時、B組担任の井上先生の乾杯の音頭で懇親会が始まり、C組大橋、G組志賀両先生によるユーモアたっぷりのお話を頂き、各テーブルの恩師を囲み積もる話に花を咲かせた。途中、滝沢氏(F)の音頭で母校への寄付を募ったところ、瞬く間に十三万余円が集まり、佐藤(孝)氏(D)より宮地校長へ手渡された。「卒業30周年」ということは人生の仕上げの年代であり、これまで以上に努力、精進して欲しい」と叱咤激励を頂いた。そして現校長の宮地先生から後輩達の勉学・スポーツ・芸術での活躍状況をお聴きし、参加者全員で記念写真を撮り式典を終えた。



恩師を囲んで

午後七時、B組担任の井上先生の乾杯の音頭で懇親会が始まり、C組大橋、G組志賀両先生によるユーモアたっぷりのお話を頂き、各テーブルの恩師を囲み積もる話に花を咲かせた。途中、滝沢氏(F)の音頭で母校への寄付を募ったところ、瞬く間に十三万余円が集まり、佐藤(孝)氏(D)より宮地校長へ手渡された。「卒業30周年」ということは人生の仕上げの年代であり、これまで以上に努力、精進して欲しい」と叱咤激励を頂いた。そして現校長の宮地先生から後輩達の勉学・スポーツ・芸術での活躍状況をお聴きし、参加者全員で記念写真を撮り式典を終えた。



次回35周年の再会を誓って全員で

「万歳はお手上げに通じ」ということから、「人生の仕上げに頑張ろう!」と元氣よくシユプレヒコール、そして紅一点の幹事でお世話してくれた風間(榎木)さんの「五年後の私達の35周年は、青山百周年という大イベントと重なるのでそれまで健康で必ず再会しましょう」という固い約束で懇親会は閉じられた。しかし、30年振りの再会でお互いの「青春の顔」を思い出すにはあまりにも時間が短すぎ、クラス別にあるいはグループ別で用意した古町界隈の五つの二次会場に別れ時を忘れ心ゆくまで語り、且つ、歌い五年後の再会を誓った。最後に、人生で最も多忙な時期に幹事として月に一二回の会合に参加された諸氏及びその会場を提供してくれた大野屋旅館の大野氏(B)、割烹越の滝沢氏(F)に感謝するとともに、陰日向に御助力下さった青山同窓会事務局の岩田さんに、心からお礼を申し上げて報告に代えることとしたい。

ハイティーン水泳新中・新高

60回 平田 大 六(関川村)

手書きの賞状

昭和23年という年は、新制高校に改革された年であつた。あの場所に、いまの新潟高校、新潟中学の最後の三年生、校舎がなくて間借りした新潟小と鏡淵小からの新制中学生の三つが同居することになった。新潟高等学校、新潟中学校、仮設中学校のいわゆる「三ヶ条の校標を掲げた」時代だ。私たちは、この中であつた新潟中学生だったため、同じ学校に六年もいたということ、ネガティブな評価をもらつていたようである。しかし、水泳部の活動は一本になつていて、併設中学生も含まれていて、入学試験にパスすれば、晴れて新潟高校生として大会に出場することになるのである。そのなかにやがて名選手になる江口良助(61回)たちがいた。ロンドン五輪のあった年だが、日本はまだ出場できなかった。そのかわり、国内で全日本選手権大会が開かれ、まだ「トビウオ」にはなっていないなかつたけど、日本大学の古橋広之進の活躍の情報は、かすかに私たちにまで達した。水泳部の部屋の戸棚に、水泳に関する技術書がいっつか置いてあった。外国の原書もあつたが、斉藤魏洋の著した「水泳」で、高石勝男、前畑

秀子、キーンファアなどの名前を私は知った。そして時たま観るターザン映画で、ワイズミュウラーが密林の川で豪泳するシーンが、私たちにとっては唯一の「実物」勉強だったのである。万代橋が墜ちた年の9月5日、新潟市水上選手権大会というのが開かれた。これは新潟市に住んでいる者であればおとなでも、子供でも誰れでも出場できる。私たちの所属は「青山クラブ」だった。ライバルの新潟商業高校は「葦原赤銅会」。その他医学部や師範の選手もいた。私が出場したのは、四百と八百で、一諸に泳いだおとなの中には、国鉄の吉田孝(52回)先輩もおられた。

私はここで完全優勝をしたのだが、もらった賞状は「認証」の文字がはじまり、「...:右者本年度市水上競技選手権大会ニ於テ頭書ノ選手権ヲ獲得ス依テ茲ニ之ヲ認證ス」などと書いてあつた。これは一枚一枚、水野清之助(44回)先輩の真筆だったから、四百と八百では、文章の末尾が少しがづついていた。二位には賞状はないのですか、とたずねたら、選手権とかいうのは優勝したモンにしかやれないんだバカ、と大黒善弥(50回)先輩に叱られた。(つづく)

油：黍蔗火社凡
 史蹟生陽出典此
 玉簪鏡中連殉葬
 低野橋流水苦思
 丁卯九月十日集陽
 王荊全 筆 于 人 題

古都、安陽で、恩師渡辺秀英先生から、直筆のこの詩をいただいた。

9月12日、首都、北京から始まった私たちの中国の旅は、安陽・洛陽・西安と鉄路をたどり、空路上海に至る9日間であった。一行21名中、わが60回は7人、私にとって30数年ぶりの修学旅行である。



師弟(安陽市にて)

最も有意義だったのは、渡辺先生の現地講義であった。北京では明の十三陵など。安陽では殷墟など。洛陽では龍門石窟など。西安では華清池など。随所で、10回を超える先生の往時のままの、熱のこもったお話を、現地ガイドさえ真剣に聞き入るほど、迫力に満ちていて、この年、喜寿を迎えられるなど、とても考

えられないものであった。先生には、7回目の中国とか。初回の私などを別として、既に何回も訪れている仲間、歴史や文化に驚くほど詳しく、にわか勉強では歯が立たない。この旅では、多くの収穫があった。まず北京では、日本大使館の斎藤利勝さん(参事官・72回)と北京ダックの晚餐を共にし、更に、安陽への夜行列車を待つ間、外交官や外人ジャーナリスト専用の高層マンションの公舎を尋ねて



鴨の晩餐と北京の夕暮(先生と斎藤氏)

御夫妻のもてなしを受けた。西域地方出張の際の撮影という、少数民族と斎藤さん一家の、類えまじい交流を描いたビデオを拝見したり、最近の中国事情について、お話を伺うことができた。なお、北京大学には、やはり恩師の伊狩章先生(46回)が、教鞭をとっておられるという。

明の十三陵の定陵を見学後、頤和園を探勝する人たちと別れて、八達嶺から登った万里の長城は、月から視認できる地球上の唯一の建造物といわれ、見渡す山々の稜線に延々と続く長城は、風景としては



万里長城

楊貴妃の面影を追って

中国への修学旅行

60回 市川 豊



大黄河から洛陽へ向かう列車の窓から。ガタンガタン

もとり、築造にたずさわった人々の巨大なエネルギーが、足もとからじわじわと伝わってくるようだ。居庸関の関所跡に立ち寄る。

安陽は、殷墟の発見(一八九九年)から比較的年月の浅いこともあって、観光客の訪れは少なく、素朴な落ち着いたたたずまいの古都であった。殷墟のほか文峰塔、南宋の武將岳飛の廟、清の政治家袁世凱の墓を尋ねた。この宿舎は、いわゆる賓館



大黄河夕映

と、ひとときわ高い車輪の響きとともに長い長い鉄橋を渡る。鏡のような河面に映える、夕日の印象は強烈。

西安は、古くは長安と呼ばれ、紀元前十一世紀から二〇〇〇年にわたり十一の王朝が都としたところ。秦始皇帝、玄宗皇帝と楊貴妃、僧玄奘、阿倍仲麻呂などに係る史蹟が散在する。ロマンの多い古都を切りし、兵馬俑坑の中では、その広大に目を見はり、華



楊貴妃陵墓

興慶宮公園に、安倍仲麻呂の記念碑がある。遣唐使の一人として渡航した仲麻呂が、科擧に合格して秘書監にまで昇進したが、再び故国の土を踏むことはなかった。その強い望郷の念を歌った「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」は、百人一首に選ばれ、この碑にも

伊水をはさんで対岸の、詩人白居易の墓のある香山寺も訪れる人が多い。中国初の仏教寺院、白馬寺にも立ち寄る。中国の生活は朝が早い。この公園も、早朝から太極拳の人々が見える。ジョギングの人もたくさんいて、私も洛陽ではみんなと一緒に走る。

洛陽は、三国志で有名。紀元前七七〇年、周にはじまり唐まで九王朝の都となった。龍門石窟は、敦煌、雲崗とともに中国三大石窟といわれ、一番古い古陽洞(修築中)をはじめとし、大小の仏像彫刻約十万、碑文三、六〇〇が刻まれており、中でも最大規模をほこる、奉先寺の盧舎那仏



龍門石窟 奉先寺仏像

清池の温泉に、今も残る朽た湯舟に、楊貴妃の肢体を想って唾を呑む。長恨歌の「春寒賜浴華清池 温泉水滑洗凝脂 侍兒扶起嬌無力」を現実のものとする。

われわれはほかに、唐高宗の乾陵、永泰公主墓、古墓博物館などを回る。更に、シンボルタワーのような大雁塔に上って市街を展望し、旧市街にある鐘樓、陝西省博物館(西安碑林)を尋ね、昔、三藏法師の旅立ちや、遠くインド、東ローマ等、通商で往来した紅毛碧眼をも見送ったであろう西門から、はるか夕日の彼方に続くシルクロードへの想いを残しながら上海に向かう。



楊貴妃の洛陽を背に先生の講義

日中両文で刻まれている。

〈予告〉東京MUZO会(60回)・中央高校東京同期の方新年会を行います。1月23日(土)午後4時から。会費七、〇〇〇円。会場：池袋「笹間」

豊島区池袋2-1-2 電話 971-6796 申込は幹事金山269-7014まで。

画人笠原轅と

その父漁村(三)

60回 小林 智 明

立雲会のこと

明治三十七年(一九〇四)二月、対露宣戦布告によりついに日露戦争が勃発した。そんな激動の年の春に、十九才の轅は画家をこころざして東京美術学校に入學した。

東京美術学校は、勅令により文部省の直轄学校として明治二十年に創設された学校で、今の東京芸術大学の前身である。

開校当初の修業年限は普通科二年、専修科三年の五年制で、専修科は絵画科、彫刻科、図案科(すぐに美術工芸科と改称)があり、別に教員養成の特別の課程(一年)があった。維新以来の西歐化的風潮の下で、わが国の伝統美術の創造的復興をめざした九鬼隆一、アーネスト・F・フェノロサ、岡倉天心らの主導で国粹色の顕著な内容で開校したから絵画科には日本画しかなかったが、西洋画科が絵画科の中に新設されたのは、その指導者として黒田清輝と久米桂一郎が迎えられた明治十九年からであった。(東京芸術立百周年記念展「油画・工芸」誌より)

轅が学んだその西洋画科には、黒田教授の下に藤島武二や岡田三郎助、和田英作などの助教が教えていた。同級には轅と首席を争ったという金山平三や、後年隣人として親しく交際した安藤東一郎などがいた。一級下の明治四十三年卒業組には岡本一平、藤田嗣治、池部釣(池部良の父)、田辺至、長谷川昇、安宅安五郎(新潟出身)などの後年名を成した人達が多くいた。更に二級下には、轅の後を追って新潟中学校より十三回生の鈴木良治(亀田)と富田温一郎(金沢)が西洋画科に入ってきた。更に十四回生の佐藤吾三郎(旭町)も西洋画科に、赤坂永国上

は日本画科に入學して来た。

さてそれではここで、轅を育んだわが新潟中学校の美術、特に絵画の土壌について考えてみたい。

新潟中学校には創立以来の木村良吉という図画の先生がいた。この先生もまた三堀兵五郎や鳥居休夫らの創立以来の先生に劣らず、深く新潟中学校と生徒を愛した先生であった。木村良吉は富山県の人で狩野勝川院の高足木村立岳の子で立雲と号した。東京美術学校特別の課程第二回の卒。明治二十五年卒業するや新潟中学校に図画の教師として迎えられた。途中明治二十六年十二月から二十八年六月まで一年半を、新発田の歩兵第十六連隊に入營、少尉に任ぜられて除隊。その後再び新潟中学校に教鞭をとった。そして轅が三年生の明治三十三年十二月、雪の新潟

を後にして静岡師範学校に赴任して行くまで図画と体操を教えた。静岡師範に転任後も新潟中学校と生徒のことが忘れられず、折にふれて「静陵寄言」なる通信文を遊方会雑誌に寄せて来た。しかし明治三十七年に日露戦争が起るや召集され、旅順二百三十高地の攻撃に参戦。更に三月九日の奉天大会戦に於て惜しくも二十三才の生命を散らしてしまつた。

その後新潟中学校の生徒の間では、この木村良吉先生の教えをしのび、轅が美術学校二年生の明治三十八年六月に、絵画に熱心な生徒らの発起で幾多の障害困難を排して「立雲会」と称する絵の展覧会が催された。美術学校在学中の轅が、母校後輩のこの画会に率先協力したことは言うまでもない。

しかし翌三十九年の遊方会雑誌第十九号に、轅が母校に寄せた「故園の画趣」という文の中に「……二回まで開かれた立雲会は音沙汰もなく消え失せた。去年の夏は短襦袢袴の人が信江河畔の夕ぐれに写生帖をくつて居た。ポートの大選手が汗ばみたる運動服に潜まして休息の小閑を楚々たる色鉛筆に余念なき様を覗たのに、今年は一度も写生する一人をも見出さなかつた。……先に開かれた立雲会の内情をきいては啞然たらざるを得ない、展覧会の準備せら

るや委員は東西奔走懇願的に出品を勧誘して、心から筆をとる人達は僅かに指を屈するに過ぎずとか、果して真ならば本末を失すること大なるものと言ふべしである。絵画は展覧会の為めに描かるものでない。平常の習作を出陳して、相鑑賞し快樂する無邪気なる会合でなくてはならぬ。……」とこの展覧会のことを大いに心配している。同じ号に「雪解水」という生徒の投稿にも「先生からひと肌」という文で、「我が校の画壇を見るに、僕等の三年時代にあつた様な画狂は今見る事が出来るだろうか？文壇の衰頹と共に画壇の衰頹も現実せられて居る様だ。文壇は梓会の尽力で漸々回復もして行こうが画壇は中々至難の境である。一体僕は立雲会の開催を

一学期に望んで居つたのだが音沙汰どころか噂もなし、何と云ふことであらう。……全体僕に云はせると写生の稽古として鉛筆画練習の時、飾り物のやうにしてある石膏像を写生させたり、或は折々戸外写生に引卒して自然の画趣を吹き込んで貰いたいのである。願くは立雲会をして盛ならしめよ。其盛大に赴かせんには是非共先生の偉大なる尽力を得ねばならぬ。……僕は立雲会の確立と共にスケッチ隊の如きものを組織して一晩泊り位に騒いである位から旅行少々々々興味は少なくなかうと思ふ。何はともあれ六百の健児に向つて高潔なる文趣と画味を注入するには先生の「一と肌を要するのである」と訴えている。

その心配の甲斐あつてか、立雲会は年々盛んになつた。第六回立雲会(明治四十二年十月)の記録には次のように見えている。「金風飄々桐葉を飄し、肅殺の気天地に充てる十月十日、我立雲会第六回絵画展覧会を開かる。此の日、本校にて亦陸上運動会を挙行せられしを以て、来観者引きも切らず。出品点数は二百二十八点にして、前年よりその数を減じたれども、筆者の熱心と技術とは、明かに進歩上達の実を表はせり。油絵室には卒業生及び在校生の出品画あり。中にも卒業生渡辺氏の西洋柳、富田氏の籬、及び在校生木村氏の肖像画は、特に来観者の足を止めしめたり。」とその隆盛ぶりが記され、渡辺轅(後に笠原)と富田温一郎の作品が目されたことも記されている。次の七回展にも轅は油絵二点と数葉の水彩、スケッチを出品している。

しかしその立雲会も、明治から大正へと時代が移るにつれ次第に形も変つてしまつたらしい。創立六十周年記念誌の「青陵回顧録」に書かれた富川潤一(三十四回生)の「立雲会の思い出」に、「……私共の新中在学当時(注、大正末頃より昭和初め)は学校直系の美術部というものはなく傍系的な立雲会という生徒の展覧会がありまして年に一度程、旧新潟毎日新聞の楼上などを借りて展覧会を開き大いに気焰を上げた積りでしたが一般観衆はどれだけ評価してくれたものかさっぱり見当がつきませんでした。私共在学当時の立雲会からは曾我英吉氏(三十二回生・新潟・東京美術学校西洋画科昭和八年卒)が画家として東京で活躍して居られる……」と記されているように、毎春秋の運動会の日校内で催されていたのが、校外に開催されるように變つて行ったことがわかる。富川先生は八十才で今健在でおられるので、先日その後の立雲会についておたずねしてみたが、何時まで続いたかかわしいことは不明で、昭和の不況から戦争へと移つた時代と共に消えてしまつたらしいことは惜しまれる。

木村良吉(立雲)先生



(次号につづく)

昭和62年度青山同窓会費納入者

(4月より12月20日まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。
1口1,000円でできるだけ2口以上でお願いします。

(郵便振替口座 新潟5-4455 青山同窓会)
(第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会)

- List of members and their contributions, organized by amount. Includes names like 玄夫元郎, 中田田崎, 原林弘藤, etc., and their respective contribution amounts and names.

